

認定NPO法人マドレボニータ 2016年度 年次報告書

2016(H28)年10月-2017(H29)年9月

写真は認定NPOの認定証を受け取った都庁の広場にて



《目次》	ページ
・ 代表よりご挨拶	1
・ 認定NPO法人化のご報告	2
・ 2016年度 全体の取り組み	3-6
・ 教室事業	7-9
・ 養成事業	10-11
・ 研究開発事業	12-15
・ 会員事業	16
・ 行政との取り組み	17
・ 企業との取り組み	18
・ マドレ基金	19-23
・ 広報 メディア掲載実績	24
・ 財務状況	25-32

いつも暖かいご支援をありがとうございます。2016年10月から2017年9月までの2016年度は、団体設立から10期目の年度となり、2018年3月17日には10周年記念イベントも予定しています。法人化10周年、創業からは20年という節目のタイミングで、2017年11月16日付にてマドレボニータは「認定NPO法人」になりました。認定当日は都庁で認定証を受け取り、今後の情報公開の義務や、認定の有効期間、5年後の再申請の際の注意点などの説明を受けました。申請から長きに渡る、細かな審査を受け、ようやく取得した認定です。

認定NPOは全国に約50000団体あるNPOのうち、約1000団体。5万分の千、つまりたったの2%のみが、そのステータスを取得しているという狭き門。この厳しい基準をクリアした団体と認定されたことによる、いちばんのインパクトは、マドレボニータにご寄付いただく際の税額控除のメリットです。個人、法人、相続財産の寄付全てに、税額控除のメリットがあります。詳しくは次のページの認定報告をご覧ください。



NPO法人マドレボニータ

代表理事 吉岡マコ

認定NPO取得の日11/16
都庁の広場にて

マドレボニータが単なるママさん体操教室であれば、このような認定取得や寄付集めなどは必要なかったかもしれません。しかし私たちの活動は、それだけに留まりませんでした。リフレッシュだけでなく、リハビリ、エンパワメントとしての産後ケアの開発・研究、その教室を標準化して多地域展開し、インストラクターの養成・認定つまり人材育成も担う。また、いままで認知されてこなかった産後ケアというコンセプトを世に問うこと、啓発や調査や、社会インフラ化にも挑戦しています。それらの多くは、コストはかかっても、すぐに収入に繋がる事業ではありません。でも必要とされていて、誰もやらないなら私たちがやる、と決めておこなっていることです。それを継続させ、成果を出すためには、寄付や会費といったご支援が不可欠で、こうした事業のサステナビリティに直結してきます。認定NPOとなったマドレボニータをこれからもよろしくお願いします。

NPO法人マドレボニータは法人化10周年を迎えるこのたび、2017年11月16日付にて東京都より「認定NPO法人」として正式に認められましたことをご報告いたします。

マドレボニータは本申請を機会に、コツコツと、組織体制の強化に取り組んでまいりました。みなさまのお力添えにて、新たな一步を迎えられましたことに心よりお礼を申し上げます。

なお、申請にあたっては認定NPO法人シーズ様の多大なサポートを受け、公益財団法人損保ジャパン日本興亜福祉財団様に「認定NPO法人取得資金」の助成をいただきました。

認定NPO法人とは？

NPO法人のうち、運営組織や事業活動が適正、かつ公益の増進に資することにつき一定の要件を満たした法人が認められます。内閣府NPOホームページによると、NPO法人の数は51,745法人（平成29年10月末現在）、うち認定NPO法人は1,055法人（平成29年12月8日現在）となっています。

寄付金控除について

マドレボニータに寄付された方は、確定申告によって、寄付金控除等の税制優遇を受けることができます。

※対象は単発寄付、継続寄付（マドレ応援団）、賛助会員費となります。

●所得税が減税となるほか、自治体によって住民税が減税となる場合もあり、最大50%の減税となります。

●相続財産寄付・遺贈寄付は非課税となります。

●法人の場合、法人税を軽減させる「寄付金損金算入枠」が3-5倍になります。また、一般枠と特別枠の合計額まで損金にできます。



2016年度 4つの重点施策

サイト・申込/会員寄付 システムリニューアル

導線を整え、
アクセスを
容易に



養成コースの地方開催



さらなる
多地域展開

法人向けプログラムの展開

企業を
産後ケアの
インフラに



マドレ教室チケットのリリース



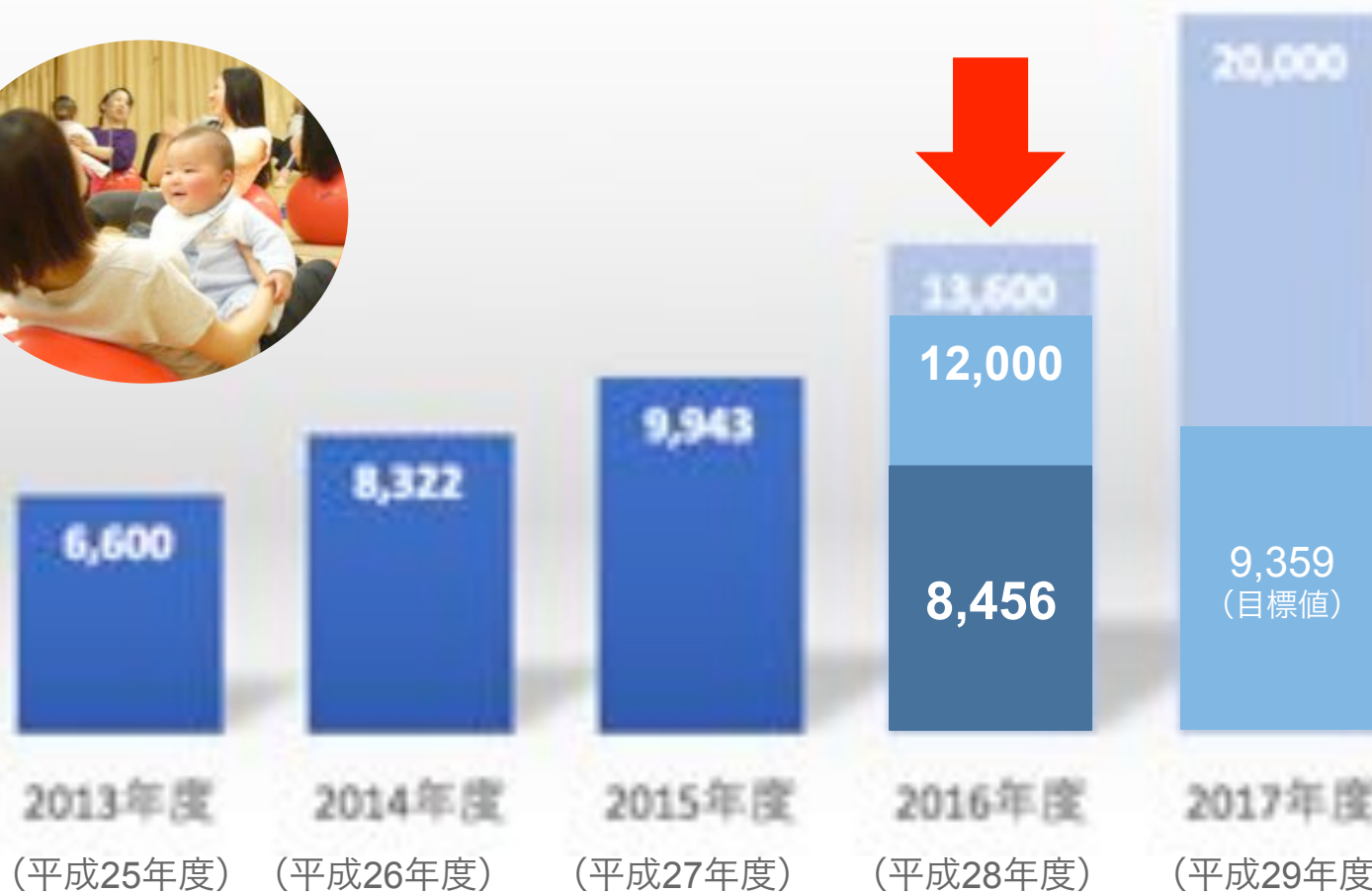
産後ケアを
プレゼント

みんなで
産後を支える
しくみ

①受講者数

目標13,600人⇒実績8,456人

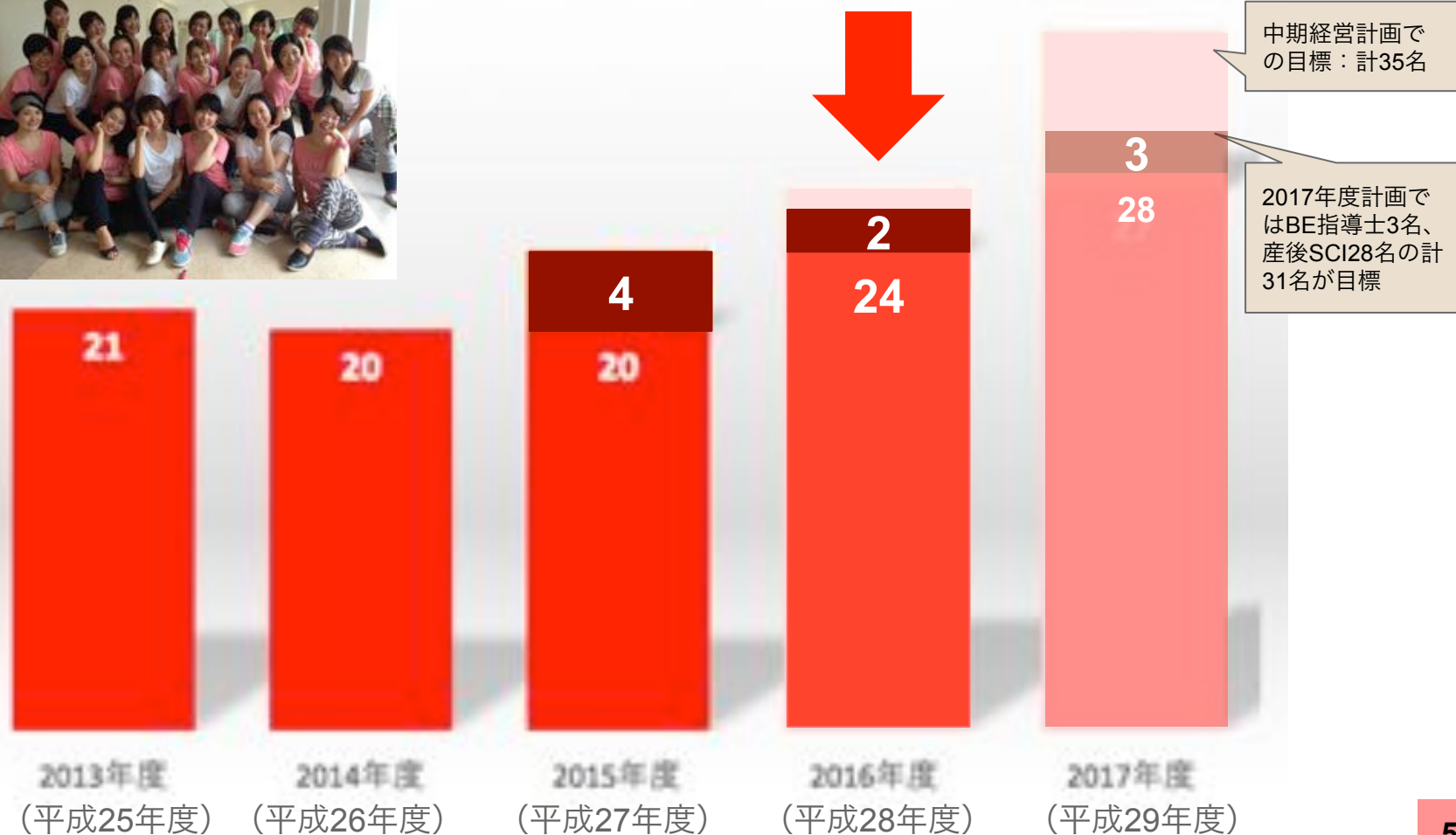
受講者数は昨年度を下回り、8,456人となりました。
教室の開催数は増えたものの、新規開講や既存教室の満席率が低下したためと考えられます。
詳細については、この後の教室事業をご覧ください。



②インストラクター数

目標27人 (sci:24, bex:3) ⇒ **実績26人 (sci:24, bex:2)**

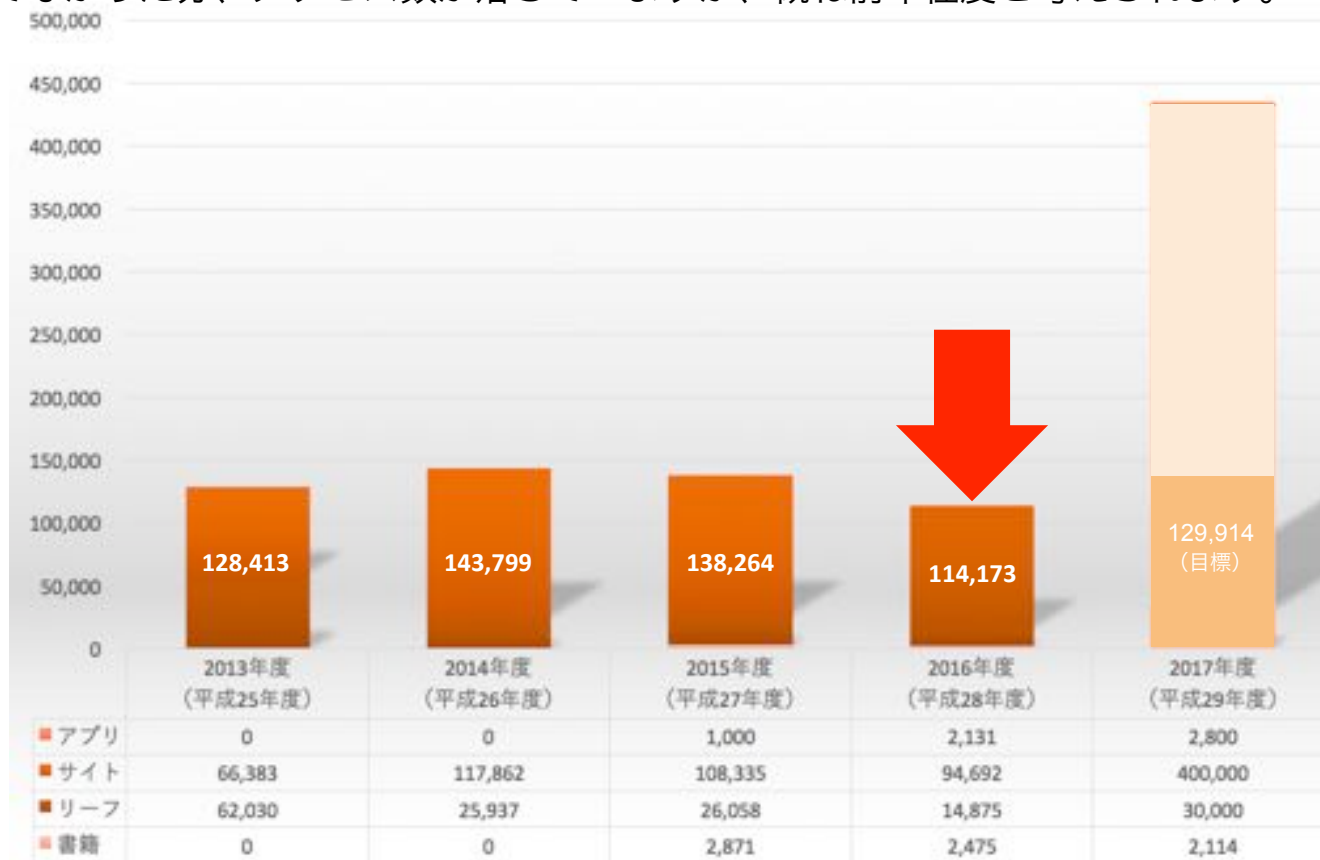
養成コース開催時期のズレにより、インストラクター数は目標の27人には届かなかったものの、新たなチャレンジに確実に実績を残しました。これはインストラクター養成チームの尽力と多くの会員さんの応援の結果です。



③認知数

目標：276,373⇒**実績：114,173**

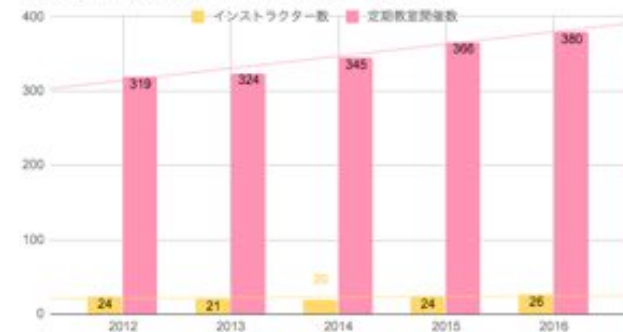
認知の数を「アプリのユーザー数」「サイトの新規アクセスユーザー数」「リーフレット配布数」「書籍の販売数・配布数」と決め、計測することを開始しました。サイトはリニューアルに伴い、一時期測定ができてなかった分、アクセス数が落ちていますが、概ね前年程度と考えられます。



2016年度 活動報告

平成28年度は産後セルフケアインストラクターが4名デビューしたこともあり、定期開催の産後ケア教室・産後のバランスボール教室・マタニティケア教室の開講数は微増ではありますが前年を上回りました。この数字に大きく貢献したのは産後のバランスボール教室で、開催数は前年から+12回の30回、受講者数は+157名の267名という結果でした。しかしながらその他の単発講座の開催数は-10%、受講者数は-21%となってしまう、全体の受講者数は前年比85%に止まり、中期経営計画で目標としていた13600名には及びませんでした。

定期教室開講数とインストラクター数の推移



開催実績

定期開催数：380回（前年比+14／104%） 受講者数：2,854人（前年比+19／101%）

全開催数：1068回（前年比-62／95%） 受講者数：8,456人（前年比-1487／85%）

産後ケア教室 14都道府県／42区市町（直営教室1、認定教室45）

335コース（前年比+10コース／103%） 2,476人受講（前年比-106人／96%）

開催数は増えたものの満席率低下で振るわず

マタニティケア教室 2都県／5区市（認定教室5）

15コース（前年比-7コース／65%）／111人受講（前年比-32人／78%）

講師の育休により開催・受講者ともに減

産後のバランスボール教室 3都道府県／6区市（認定教室7）

30回（前年比+12回／167%）／267人受講（前年比+157人／170%）

大幅増！この秋指導士3名デビューで来年も更に増える予定

単発講座 ※産後のバランスボール教室のぞく

688回（-76回／前年比90%）／5,869人受講（前年比-1,506人／79%）

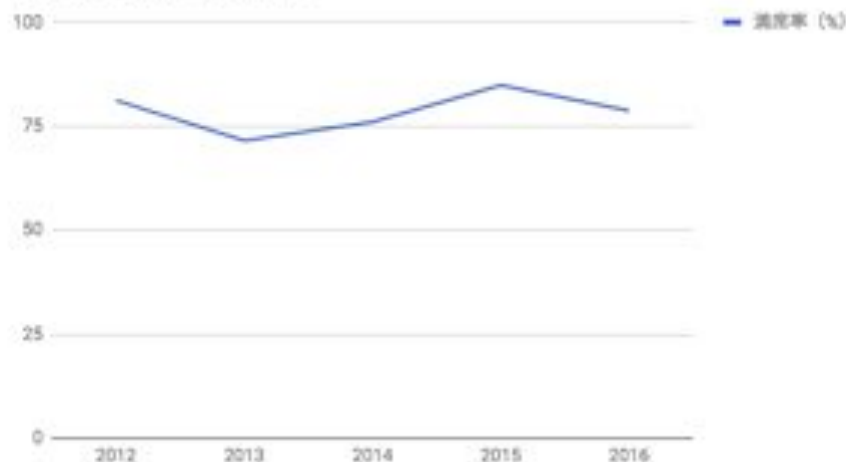
Ⓐ産前・産後女性対象 Ⓑ産前・産後カップル対象

Ⓒ教室卒業生対象 Ⓓインストラクター志望者・子育て支援関係者対象 など

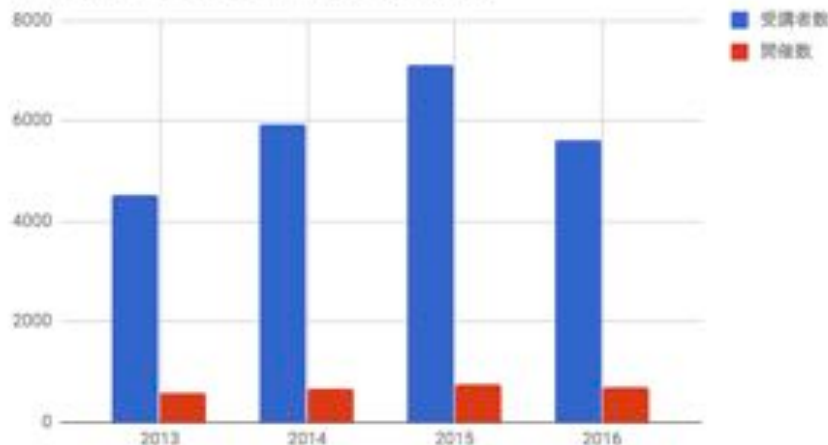
講演形式の講座が少なかったこともマイナス要因

2017年度の取り組み

産後ケア教室の満席率



単発講座の開催数と受講者数の推移



●教室運営に関わる事務作業の効率化

●教室満席率を上げるための仕組みづくり

2016年度は1教室あたりの満席率も、産後ケア教室では昨年比-5.5%となりました。これは産後ケアを受けたい産後の母たちにとって大きな機会損失です。2017年度はインストラクターがより現場や集客に集中できる環境を整備するとともに、満席率を上げる仕組み作りに取り組んでいきます。申込フォームのアンケート集計では、「教室を知ったきっかけ」で「知人・友人からの紹介」いわゆる口コミが半数を占めています。この最も影響力のある口コミからの受講をいかに増やしていくかが大きな鍵となります。ぜひ皆様のお知恵をお貸しいただけると嬉しいです。

●地域推進プロジェクト

単発講座についても、保健センターや児童館などでの単発講座を開催する自治体も増えて、実績も蓄積されてきました（「企業・行政との取り組み」参照）が、まだまだ増やす余地はあります。2017年度は教室事業内「地域推進」プロジェクトとして、講座開催に止まらない自治体との連携や、インストラクターのいない地域での産後ケアの種まき活動を行うべく、資金調達も含めて取り組んでいきます。

●産後ケアバトン制度・多胎児介助ボランティアコミュニティの活性化

産後ケアバトン制度の介助ボランティアシステムは、皆様のご協力のもとで運営させていただいております。2017年度はこのコミュニティをより活性化し、知見を共有するためのプラットフォームづくりに取り組めます。

2016年度 活動報告

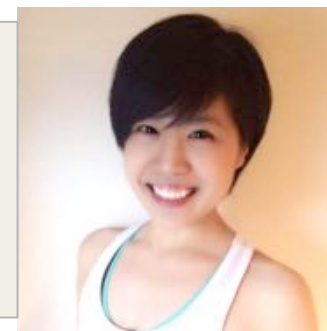
『産後セルフケアインストラクター10期生』が**4**名デビューし、
産後ケア教室が新たに**7**教室誕生！認定インストラクターは**26**名になりました



篠崎季美子
(きみちゃん)
金沢教室
福井教室



山城侑子
(ゆうちゃん)
押上教室
北千住教室※



貫名友理
(ゆりちゃん)
高田馬場教室
三鷹教室



松浦優子
(まつーら)
静岡教室
島田教室

※北千住教室は
現在産後のバランスボール教室のみ
(2018年2月より産後ケア教室開講)

2016年度 活動報告

『ボールエクササイズ指導士養成コース2期』実施



昨年度から新たに養成を開始した「ボールエクササイズ指導士」。今年度は養成コース2期を東京・名古屋の2箇所で開催しました。

1期を経てカリキュラムや養成期間の見直しを行い、2期は平成29年5～10月の6ヶ月間で実施しました。

養成コースのスタートを5月に変更、更に養成期間を延長したこともあり、2期生3名は新年度に入ってからデビューとなりました。3名は11月より東京、愛知、岐阜、三重で全8教室を開講しています。

2016年度の認定インストラクター数は26名で、中期経営計画で掲げた27名という目標に惜しくも1名届きませんでした。新年度となった2017年11月には29名になりました！！

2017年度の取り組み

【産後セルフケアインストラクター養成コース11期】

2018年2-3月 養成コース体験講座開催

2018年3-4月 養成コースエントリー受付

2018年5-10月 養成コース開催

2017年度は指導士の養成はお休みし、産後セルフケアインストラクター養成コース11期を開催します。当初11期以降は指導士のみエントリー可としておりましたが、より広いエリアから候補者を募る目的から、指導士以外の方のエントリーも受付いたします。ぜひ告知やリクルーティングにご協力いただけたら嬉しいです。

養成コース11期の募集要項
産後セルフケアインストラクター養成コース11期の募集要項です。

最新News

- 養成コース応募まで
- 応募からデビューまで
- 11期の募集要項
- 5つの必須要件
- トレーニング用動画集
- オンライン集中講座
- エントリー課題
- 養成コースを知るには
- インストラクターの仕事
- 仲間と切磋琢磨
- 運営団体
- ブログ

スケジュール・応募要件・費用・カリキュラム

◆スケジュール

- 養成コース11期 エントリー受付 2018年3月中旬～4月上旬
- 養成コース11期 選手結集発表 2018年4月21日(金)
- 養成コース11期 開講期間 2018年5月～2018年10月
- デビュー・教室開講 2018年11月

◆エントリーの条件

- 2015年3月～2018年4月に開催の4回コース(『産後のボディケア&フィットネス教室』または『産後ケア教室』)を1クール以上受講された方
※遠方にお住まいでもどうしても受講が叶わない方は別途事務局にご相談ください
- 『産後プログラム指導員集中講座2DAYSオンライン講座』を1回以上受講された方
- NPO法人マドレボニータの正会員であること
上記3つの条件を満たすまたは、エントリーシートと事前課題の提出をもって、事務局にてエントリーを承認される方

【1】 NECワーキングマザーサロン・プロジェクト

2016年度 活動報告

「母となってはたらく」をテーマにした対話を中心としたワークショップ「NECワーキングマザーサロン」（以下サロン）を市民の力で地域に展開する活動です。サロンや産後ケア教室に参加された方が活動の「担い手」となり、一人ひとりが力を発揮するプラットフォームとなっています。NEC様の協賛を得て、毎年4月～翌年3月の一年単位で実施。2016年度で第9期目となります。

※マドレボニータの下期～翌年度上期での活動となります。



開催数	85回	(開催地域) 9都道県、38区市 北海道(北見市)、栃木(宇都宮市・足利市)、群馬(前橋市・高崎市・渋川市)、埼玉(和光市)、東京(中央・文京・台東・墨田・品川・目黒・大田・中野・杉並・豊島・北・荒川・板橋・足立・葛飾・江戸川区・府中市・調布市)、神奈川(横浜市・川崎市・横須賀市・鎌倉市・逗子市)、静岡(静岡市・浜松市・島田市・掛川市・袋井市)、岐阜(岐阜市)、愛知(名古屋市・一宮市)
参加者数	525名	
プロジェクトメンバー(ボランティア)	107名	進行役:13名、運営メンバー:78名 全体サポート:アンケート4名、広報7名、伴走4名 本部:5名 ※兼任有

「安心して話せる場」をつくるために

第9期は、全国から総勢109名がボランティアで参画し、13の運営チームで地域ごとにサロンを開催。進行役は2か月間の研修を行い、チームごとにも研修を行います。第9期は「安心して話せる場」をどうやって作っていくかという視点から、サロン終了後に毎回振り返りを行い、メンバー全体で場づくりの探求に取り組みました。

2017年度の取り組み

2017年10月～12/3：サロン開催（第9期）

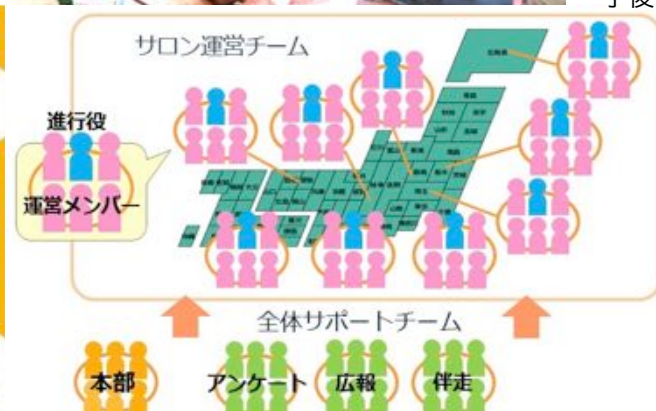
2018年1月27日（土）イベント「母となってはたらく～みんなの復職のかたち」開催

2018年2・3月 「活動説明会」実施、次期メンバー募集開始

2018年4月～5月 進行役研修（※予定:第10期）

2018年6月～11月 サロン開催（※予定:第10期）

※NEC様との年度単位（4月～翌年3月）での契約事業のため、4月以降の活動については現時点では未定です。



【2】出版（マドレブックス・マドレストア）

2016年度 活動報告

■事業目的 主に産前産後の女性及びそのパートナーに対し、産後に関する書籍の出版、メッセージ発信のための物品の制作、および販売を通じて産後ケアの認知を高める。

■マドレジャーナル発行（2016年12月・2017年6月）

- ・第33号「産後うつ」未満 ・第34号「産後うつ未満」を防ぐために

■書籍の販売（マドレストア）

- ・「産褥記3」94冊 ・「産後白書」シリーズ1～3 販売数:659冊
- ・「ワーキングマザーの教科書」 販売数:75冊
- ・「マドレジャーナル」バックナンバー 販売数:115冊

■オリジナルグッズ製作・販売（マドレストア）

- ・機能性レディースTシャツ 作製・販売数:50枚
- ・ベビーTシャツ 作製数:30枚 販売数:24枚
- ・オリジナル手ぬぐい 作製数:計200枚（2色）販売数:計137枚
- ・オリジナルスリムクリアボトル 作製数:80個 販売数:76個



2017年度の取り組み

■マドレジャーナル発行

34号（特集：産後の仲間づくり）2018年2月発行予定

35号 2018年7月発行予定

■書籍増刷・オリジナルグッズ販売

「産後白書」を増刷予定。オリジナルグッズを製作販売予定。



■事業目的 産後を起点とする社会問題に関する調査を行い、団体内外の知見の深化を促す

[illegible]

【4】産後ケアバトン+（プラス）・プロジェクト

Googleインパクトチャレンジ WomenWill賞受賞企画

■教室サイトリニューアルオープン（2016年10月）

よりたくさんの人に教室に来ていただくため、アプリと同じターゲットペルソナにして設計・デザインしました。

■マドレ教室チケット販売開始（2016年11月）

一定数チケット販売数は増えているが、もっとたくさんの方が産後ケアのバトンを渡すためのキャンペーンを次年度、実施予定です。

■アプリ「ファミリースタート」バージョンアップ（2017年4月）

夫婦で使ってもらうために実施。2人以上で使っている割合はバージョンアップ前後で15.91%→19.01%に変化しました。

■団体サイトリニューアルオープン（2017年7月）

マドレをより応援していただくため、企業・自治体のみなさんに法人プランを知っていただくために全面リニューアルしました。

■会員と寄付のシステムを刷新（2017年9月）

二回ご記入いただいていた申込情報登録を一元化、会員・寄付の種類とお手続きをわかりやすくしました。



会員数（2017年9月末時点）
正会員141名 賛助会員139名 法人会員5社

2016年度 活動報告

- ・ 2014年度年次報告書発行
- ・ 会報「マドレ通信」16,17号発行
- ・ 会員向けメールレター発行（月1回）
- ・ 会員データシステム刷新

2016年度は、認定NPO法人申請のため、イベントMadrebonitaDAYの実施を延期するなど、会員のみなさまと合同での活動の機会が例年より少なくなりました。しかし、各地で会員チームの活動がより活発になり、NECワーキングマザーサロンにおいても年を追うごとに会員さんが活躍する場が増えるなど、会員の皆さまが今まで以上に参画度合いを深め、活動を支えてくださっていることをより実感できた年となりました。（写真左下：マドレ・オホーツク主催イベント）

2017年度の取り組み

10周年記念イベント開催や、10周年にちなんだ会員さん主催イベント企画の募集など、皆さまと一丸となってマドレボニータの活動をより多くの方に伝えていければと思っております。今年度も積極的なご参画、あたたかいご支援のほどどうぞよろしくお願いいたします。



■行政との取り組み

自治体の「妊娠期～子育て期までの切れ目ない支援」推進の動きはさらに進み、問い合わせ・導入が増加。検討中の自治体が実施自治体に問い合わせ、見学を経て来年度導入が決まった事例も。

- ・ **東京都文京区**／保健サービスセンター本郷支所「産後セルフケア教室」の実施→厚生労働省の「平成28年度産前・産後サポート事業事例集」に取り組み内容として掲載

【産後セルフケア教室】 【デイサービス(参加)型】産婦が産後早期に体力を回復し、心身の健康を保持増進することを目的に、産後2～3か月の母親と乳児の交流事業を行っている。バランスボールエクササイズやコミュニケーションワーク、セルフケアプログラムの実施により、体の回復に加えリフレッシュや仲間づくりを促している。

(厚生労働省「平成28年度産前・産後サポート事業事例集」文京区ページより引用)

- ・ **宮城県気仙沼市**／職員向け研修講座1回(写真)と市民向け産前産後講座3回を実施(28年4月～29年1月)

【昨年度より継続】神奈川県横浜市／墨田区／文京区／北区(東京都)／厚岸町(北海道)／信濃町(長野県)など



2017年度の取り組み

各インストラクターが地元の自治体にアプローチする際のサポート。アプリ「ファミリースタート」も交えた新しい形の協働の形も検討していきます。

■企業との取り組み

「企業を産後ケア普及のインフラにする」ために
「復職支援プログラム」の提案・提供を推進

紹介サイトもリニューアル！
<https://goo.gl/UgfcxE>
ご紹介に活用お願いします！

★企業を通じての受益者が拡大(27年度との比較)

社員の受講料補助制度
導入法人数
3社→5社(1.7倍)

提携や受講料補助での産後ケ
ア教室(4回コース)受講者数
24名→55名(2.3倍)

企業での座学型講座
受講者数
85名→239名(2.8倍)

★内閣府「社会的インパクト評価の実践による人材育成・組織運営力強化調査」

- WEBアンケート調査とヒアリング調査（受講生／企業）を実施。
- 育休中にマドレボニータの「産後ケア教室」を受講することで、育休中から復職後にかけて復職に良い影響をもたらす変化を確認。非受講者との比較も行い、38項目中32項目で変化が起こる比率の統計的有意差がみられた

(詳しくはプレスリリース参照→ <https://goo.gl/Xy6Thu>)

★企業向け講座に「60分ミニバージョン」誕生(写真)

当事者に限らず幅広く社員を参加させたいが、2時間は確保できない→
昼休みや全社集会内で開催できるミニ講座を2社で開催。短時間でも「産
後」のもつ意味が変わるインプットを実現。



2017年度の取り組み

プログラムのさらなる普及を目指します。2017年度は特に「講座」の開催数増に注力予定。プログラムの啓発についても外部からの支援を検討中です。

寄付総額 ¥1,966,399

※西友様からの「マドレ基金」への助成、及びGoogleインパクトチャレンジ助成、情報労連様の「愛の基金」助成は「助成金」のため左記の金額には含みません。



マドレ基金寄付ルートの内訳

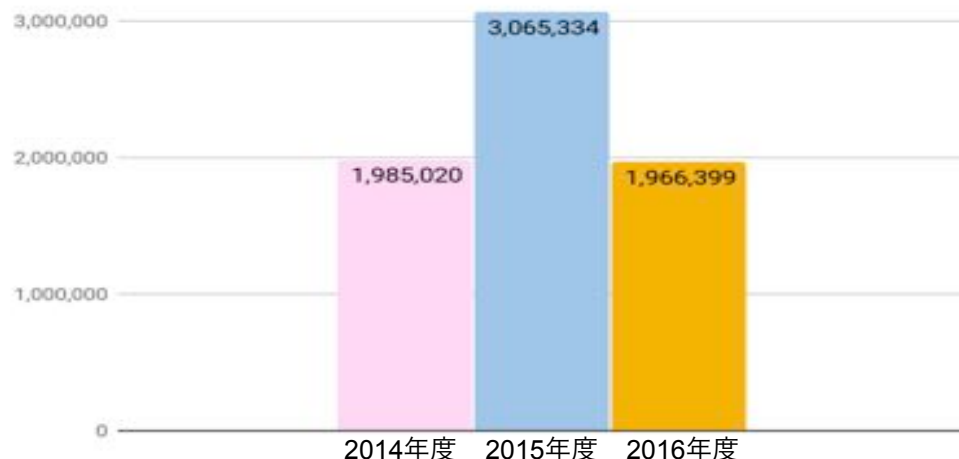
内訳	金額	構成比
企業寄付	¥723,500	36.8%
マドレ応援団	¥722,000	36.7%
チャリティ講座・イベント	¥184,393	9.4%
チャリボン	¥129,666	6.6%
個人単発寄付	¥123,440	6.3%
かざして募金	¥56,400	2.9%
産後ケアチケット未使用分	¥27,000	1.4%
合計	¥1,966,399	

<企業寄付について>

- ・ ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社様
(産後ケア教室ご卒業生の推薦)
 - ・ 株式会社大塚商会様 (写真)
- よりご寄付を頂きました。

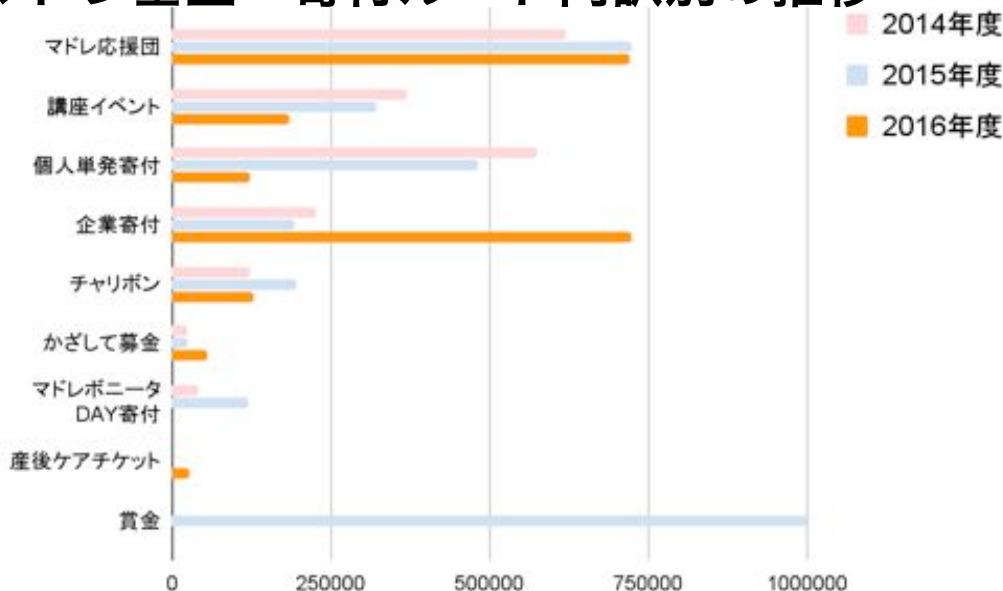
お勤め先でマッチングギフト・社員推薦寄付制度がありましたら、ぜひマドレボニータへのご寄付をご検討くださいますようお願いいたします。

マドレ基金 寄付額の推移



2016年度の寄付額は予算額に届きませんでした。大きな理由の一つに認定NPO申請があります。認定NPOになることで、団体の信頼度が向上し、より寄付者の方にもメリットが生まれるため、この一年は管理部門の整備を含めた申請準備に準備に注力してまいりました。今年度は、晴れて認定NPOとなったことで積極的なファンドレイジング活動を展開してまいります。

マドレ基金 寄付ルート内訳の推移



2015年度はビジネスピッチコンテストの賞金100万円が大きかったことがありますが、分野別に見ると2016年度は「講座イベント寄付」や「個人単発寄付」の割合が低い結果となりました。ただお金を集めるだけでなく、応援してくれる方を増やしていくことこそが、マドレボニータらしいファンドレイジングだと私達は考えています。より多くの方にマドレボニータの活動を知っていただいたり、活動の趣旨に共感していただけるように、すでにご支援いただいている皆さまにも、チャリティイベント開催や活動情報のシェアなどの形でご協力いただければたいへん心強いです。どうぞよろしくお願いいたします。

今年度の寄付金使途

下記の通り産後ケアの啓発と受益者拡大のために使わせていただきました。各事業の運営にあたっては、みなさまからのご寄付が大きな支えとなっております。今年度も、養成コースの開催、今まで産後ケア教室がない地域への開拓などに取り組んでまいります。ぜひ引き続きご支援をお願い申し上げます。

【教室事業】 ¥589,920

- 産後ケアバトン制度の認知促進活動
- 啓発リーフの普及活動
- 法人向け復職支援プログラムの普及活動
- 自治体向け提案活動 など

【養成事業】 ¥1,376,479

- ボールエクササイズ指導士2期養成コース開催
(東京・名古屋の2箇所で開催)
- 産後セルフケアインストラクター10期養成コース開催



産後ケアバトン制度

産後ケア教室受講料補助
年間支援組数 **213組**
(うち介助ボランティアあり **79組**)
累計支援組数 **730組**

年間支援組数は過去最高を更新
受講者に占める制度利用者の割合は
27年度6.8%から**28年度8.6%**に→10%を目指していく

事由別利用組数（25-28年度比較）



合同会社西友さま「社会貢献活動助成プログラム」の一環として「産後ケアバトン制度」への助成をいただいています

2017年度の取り組み

月平均18-20組のご支援を目標に運営してまいります。2018年1月～12月の西友さまからの継続助成も決定しました！

年度別支援組数の推移



産後ケアバトン制度ご利用者の声

「産後ケアバトン制度」は知っていたものの、友人に指摘されるまで自分が該当するとは思いませんでした。この制度を利用させていただいての一番の気づきは「自分の身体は一層のケアが必要な状態なのだ」ということでした。

振り返れば、帝王切開での主産後2日目から、出生児が入院した別の病院のNICUまで通うこと3週間。この期間もその後の育児（2歳の上の子どもも含め）も夢中でやってきましたが、産後に十分な休息が取れていなかったことが、腰痛や骨盤の違和感につながっているのかも、と改めて自身の身体を見つめなおしました。

産後ケアクラスに参加して、腰痛が少し軽減されたことはとてもうれしかったです。また、有酸素運動は本当に気持ちよく、他の参加者の方々とお話することで気持ちも前向きになれました。体の不調がすべて解決したわけではないため、今後も、マドレボニータの何らかのクラスに継続参加し、体力UPを図っていきたいと思っています。それが、自分の心身の健康に、そして笑顔での育児につながると感じています。

このような機会を与えてくださり、誠にありがとうございました。

（2017年1月 吉祥寺教室参加 J.Kさま【出生～生後180日の間に連続21日以上入院した児の母】）

第一子を早産で出産し、感染症が悪化しやすいと聞いたので恐くて外出することが出来ずにいました。マドレの産後ケア教室は出産前から気になっていたのですが、こういう出産をしたのだから自分のケアどころではないと考えていました。

しかし、幸い赤ちゃんの経過は順調で医師からも、普通の生活をして良いと言われ、暖かくなったら少しずつ外出してみようかなと思い、気になっていたマドレのホームページを見て産後ケアバトンを知り、背中を押してもらった形で参加しました。

参加するまでは普通の赤ちゃんとは早産で生まれた自分の赤ちゃんは違うから悩みは共有できない、早産である事も話したくないと思っていましたが、参加してみると、そもそも赤ちゃんは一人一人違って当たり前で、自分の赤ちゃんが特別ではなく、誰もが初めての、自分にとって特別な赤ちゃんを育てているのだという事がわかりました。発達はまだ追いついていませんが、そこにこだわる必要も無いと思えるようになりました。

この制度が無ければ今でも赤ちゃんの用事以外の外出はしていなかったかも、また、現在育児中ですが仕事復帰に対しても消極的になっていたと思います。外に出るきっかけと自信をくれたこの制度とそれを支えてくださっている方に心から感謝しています。

（2017年3月 宇都宮教室参加 A.Kさま【早産児の母】）



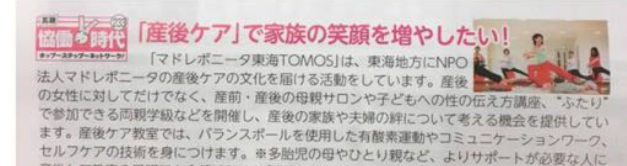
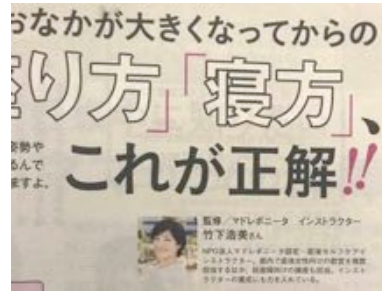
必要な方に届けるためにご協力をお願いいたします

合同会社西友さまの助成にて産後ケアバトン制度のチラシを制作し、配布しております。

- こちらからダウンロードしていただけます。ご紹介したい方にぜひお渡しください。
<https://goo.gl/jLk8wY>
- 企業・病院・自治体などでの配布協力先を随時募集しております。ご紹介もお待ちしております。
- 個人の方でもまとまった数の配布をいただける場合は事務局までご連絡くださいませ。

平成28年度メディア掲載実績

新聞	25件
Web	24件
Web連載	9件 (うちCATV1件)
雑誌	10件
ラジオ	5件
書籍	1件
地域情報誌	
・広報誌等	2件



事業別損益		平成26年度実績 (2014年度)	平成27年度実績 (2015年度)	平成28年度実績 (2016年度)
経常収益	会費	3,755	4,243	3,945
	寄付金	1,985	3,065	1,966
	補助金・助成金	10,425	26,208	31,032
	事業収益	13,040	18,381	15,341
	その他収益	17	19	8
	合計	29,222	51,915	52,292
経常費用	教室事業	11,833	15,227	17,909
	養成事業	596	4,180	4,732
	研究開発事業	12,174	18,078	21,166
	管理	3,651	4,052	6,093
	合計	28,254	41,537	49,901
経常増減額		968	10,378	2,392

2016年度の会計報告 総評

2015年度から月次での予算と実績の確認、打ち手を検討。四半期ごとにアドバイザリーボードの皆様へ報告、相談してアドバイスいただき、財務状況の改善に地道に取り組んでできました。その積み重ねの成果として、2016年度は予算と実績の乖離が大幅に減少。これは、実績をしっかりと踏まえた予算策定が実施できた成果と捉えています。また、実績をタイムリーに把握することで、半期のタイミングで予算修正を実施することができました。

2016年度は、この2年間で得た知見や経験を踏まえて、事業収益の構造の見直しに取り組むべくETIC.の野田香織さんに協力いただいています。

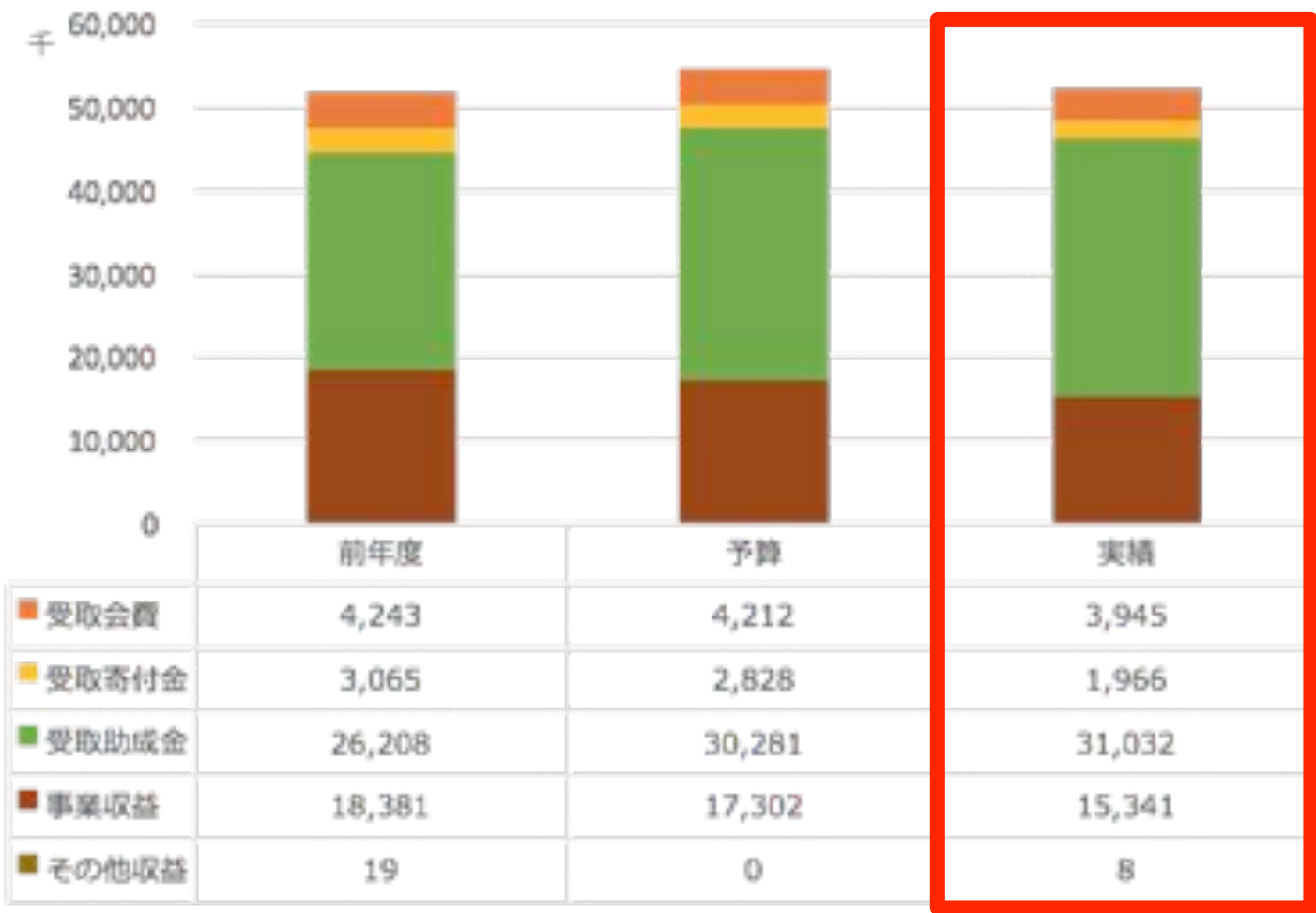
収益の前年比、予算、実績

収益は、予算に対して95.6%と後一步届かず。前年と同等の100.6%となりました。



収益の前年比、予算、実績（内訳）

寄付収益が認定申請の長期化により伸びず。事業収益も伸び悩みました。
今後、事業の収益構造の見直しを実施すると共に、10周年を記念した寄付や法人
に対する寄付や助成金収入の増加を促進します。



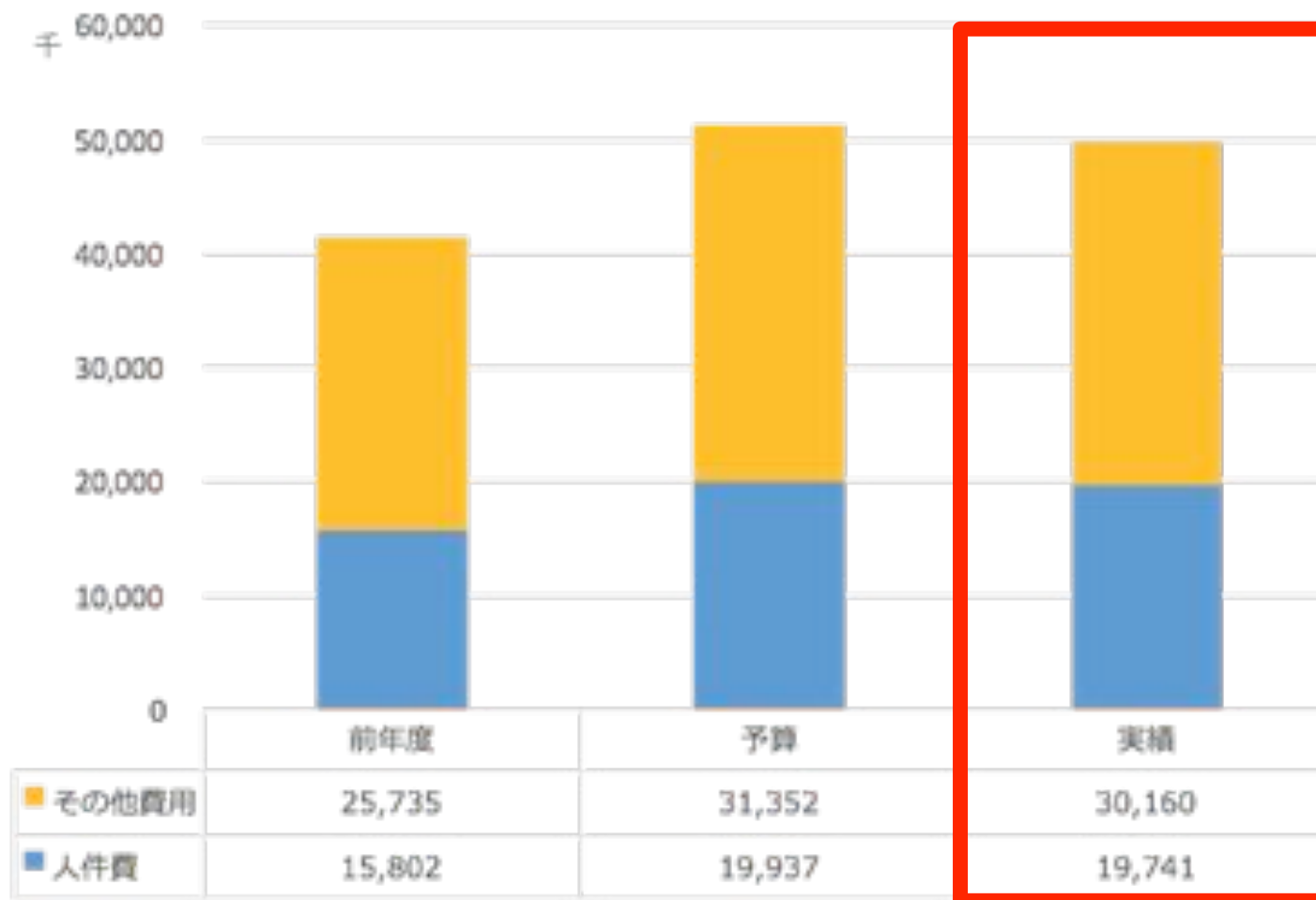
費用の前年比、予算、実績

特にその他費用に関しては、使えている、つまり施策をしっかり実施できています。人件費は計画通りで、予算管理の精度が上がっていると捉えられます。



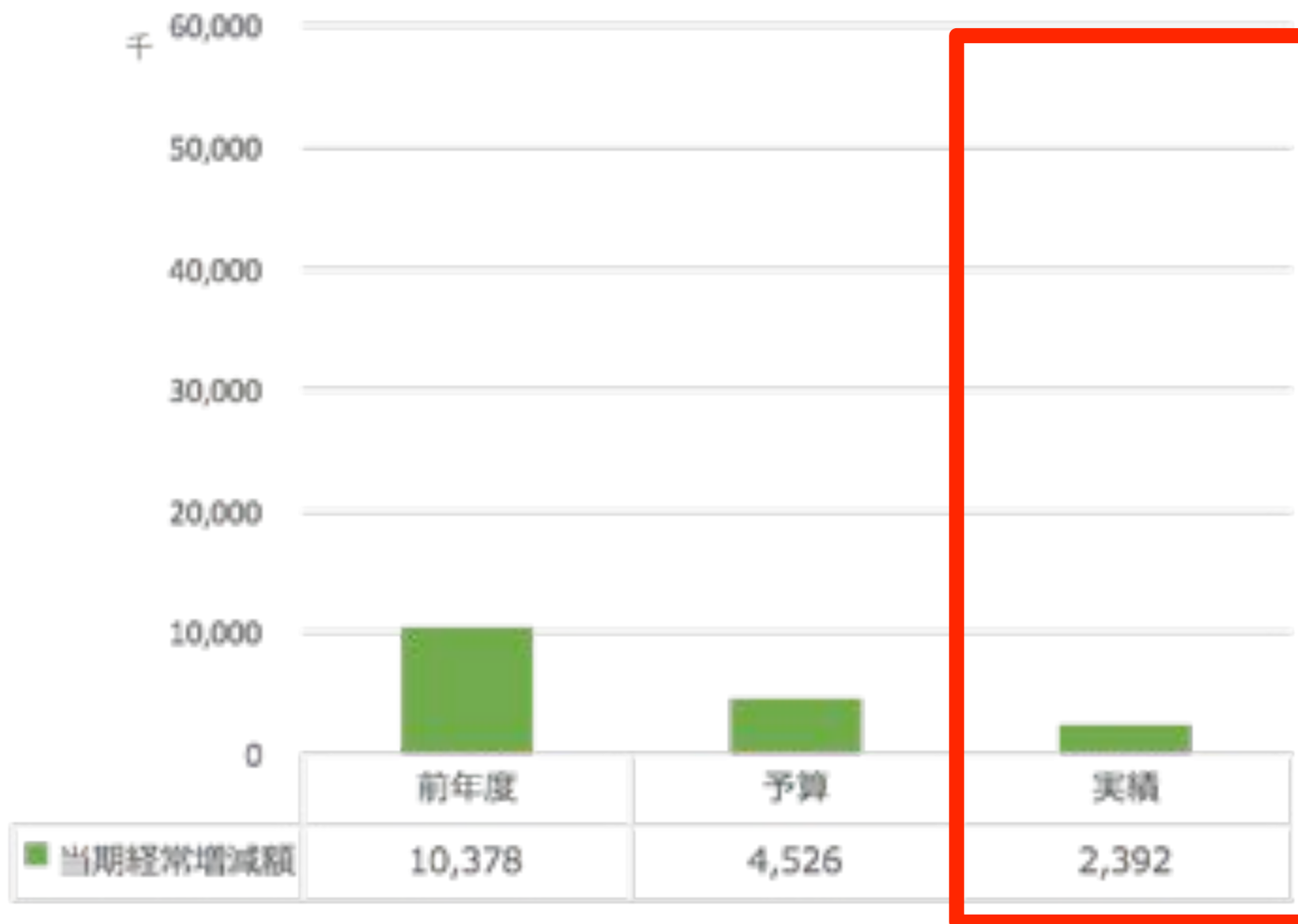
費用の前年比、予算、実績（内訳）

人件費が予算通りで、稼働の見積もりの精度があがっています。
また、その他費用は半期での見直しの結果、予算内に収まっています。



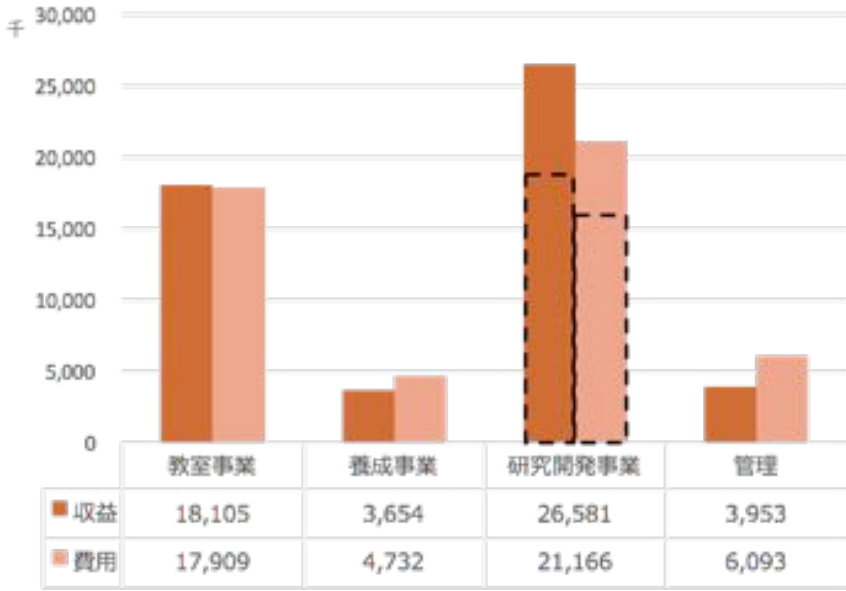
経常増減額の前年比、予算、実績

Googleインパクトチャレンジ助成金事業は2018年3月で終了します。2017年度は財務面での重点施策の本格的な強化の必要となります。追加で頂いたGoogle組織基盤強化資金はこの1年の寄付の強化に投じる予定です。



事業別収益と費用の実績

事業別で収益費用の差を見ると、養成と管理が費用が上振れました。養成は寄付を投入。費用の面では教室事業に施策を寄せているため、人件費、経費のボリュームが大きくなりました。教室事業は投資もしており稼働も大きい状況になっています。



Googleインパクトチャレンジ助成金

●教室事業

収益構造が変わり。直営教室閉鎖に伴う収益減を復職支援プログラム、チケット利用、助成金投入。

●養成認定事業

認定コースの開催有無、内容などによって、毎年収支が異なるため、予算策定が難しいところでもあります。費用は養成講師料、スタッフ人件費により上振れ。予算策定時にもう一段精度をあげていく必要があります。

●研究開発事業

ストアは過渡期。年度当初は新企画を出していくプランでしたが、新企画を絞る方向に変更したため収益費用ともに減。新企画をいくつも出していくやり方ではなく、他の戦略構築の必要があることがわかってきました。サロン、ジャーナルを含む研究開発（その他）は例年通りです。

●管理

認定申請のリソース不足を外部発注によりカバー。その結果、費用が増加した。予定していた施策実施できず、収益である会費のうち正会員の継続率低下。費用については今後見直しが必要です。



発行人 **認定特定非営利活動(認定NPO)法人 マドレボニータ**

住 所 **〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-15-9 シルク恵比寿403**

公式サイト：<http://www.madrebbonita.com>

メール：info@madrebbonita.com（事務局）